

**目的**

日本国憲法及び児童の権利に関する条約の精神にのっとり、次代の社会を担う全てのこどもが、生涯にわたる人格形成の基礎を築き、自立した個人としてひとしく健やかに成長することができ、こどもの心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、その権利の擁護が図られ、将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指して、こども政策を総合的に推進する。

**基本理念**

- ① 全てのこどもについて、個人として尊重されること・基本的人権が保障されること・差別的取扱いを受けないようにすること
- ② 全てのこどもについて、適切に養育されること・生活を保障されること・愛され保護されること等の福祉に係る権利が等しく保障されるとともに、教育基本法の精神にのっとり教育を受ける機会が等しく与えられること
- ③ 全てのこどもについて、年齢及び発達程度に応じ、自己に直接関係する全ての事項に関して意見を表明する機会・多様な社会的活動に参画する機会が確保されること
- ④ 全てのこどもについて、年齢及び発達程度に応じ、意見の尊重、最善の利益が優先して考慮されること
- ⑤ こどもの養育は家庭を基本として行われ、父母その他の保護者が第一義的責任を有するとの認識の下、十分な養育の支援・家庭での養育が困難なこどもの養育環境の確保
- ⑥ 家庭や子育てに夢を持ち、子育てに伴う喜びを実感できる社会環境の整備

**責務等**

- 国・地方公共団体の責務 ○ 事業主・国民の努力

**白書・大綱**

- 年次報告（法定白書）、こども大綱の策定  
（※少子化社会対策/子ども・若者育成支援/子どもの貧困対策の既存の3法律の白書・大綱と一体的に作成）

**基本的施策**

- 施策に対するこども・子育て当事者等の意見の反映
- 支援の総合的・一体的提供の体制整備
- 関係者相互の有機的な連携の確保
- この法律・児童の権利に関する条約の周知
- こども大綱による施策の充実及び財政上の措置等

**こども政策推進会議**

- こども家庭庁に、内閣総理大臣を会長とする、こども政策推進会議を設置
  - ① 大綱の案を作成
  - ② こども施策の重要事項の審議・こども施策の実施を推進
  - ③ 関係行政機関相互の調整 等
- 会議は、大綱の案の作成に当たり、こども・子育て当事者・民間団体等の意見反映のために必要な措置を講ずる

**附則**

施行期日：令和5年4月1日  
 検討：国は、施行後5年を目途として、基本理念にのっとり  
 こども施策の一層の推進のために必要な方策を検討 3

## ■ 「市町村子ども計画」の策定（法第10条）

都道府県は、国の大綱を勘案して都道府県子ども計画を作成するよう、また、市町村は国の大綱と都道府県子ども計画を勘案して、市町村子ども計画を作成するよう、それぞれ、努力義務が課せられている。

### 都道府県子ども計画、市町村子ども計画（第10条）

- ◆ 都道府県子ども計画・市町村子ども計画は、既存の各法令に基づく以下の都道府県計画・市町村計画と一体のものとして作成することができます。
  - ✓ 子ども・若者育成支援推進法第9条に規定する、都道府県子ども・若者計画・市町村子ども・若者計画
  - ✓ 子どもの貧困対策の推進に関する法律第9条に規定する、都道府県計画・市町村計画
  - ✓ その他の法令の規定により地方公共団体が作成する計画であって子ども施策に関する事項を定めるものの例
    - 次世代育成支援対策推進法に基づく都道府県行動計画・市町村行動計画
    - 子ども・子育て支援法に基づく子ども・子育て支援事業計画
- ◆ 地方公共団体が、本条の規定を活用し、子ども施策に関する事項を定める計画を一体として策定した場合には、区域内の子ども施策に全体として統一的に横串を刺すこと、住民にとって一層わかりやすいものとする、事務負担の軽減を図ることなどが期待できます。
- ◆ 子ども家庭庁においては、今後、様々な情報提供・支援を通じて、地方公共団体における子ども計画の策定を後押ししていきます。